

園長だより NO74

政府は新型コロナウイルス対応のまん延防止等重点措置について3月6日までの期限を適用している都道府県のうち首都圏などの10都府県について期限を延長することを近々、検討する。千葉県もその一つ、おそらく2週間21日までの延長になるようです。

新型コロナウイルス感染症の国内での第1発症例は2020年の1月、月日が過ぎ2年もの歳月が過ぎました。



コロナ禍での園生活

来週末に実施予定の卒園式はコロナ禍中では3回目の卒園式になる。オミクロン株が市中にまん延している現在、感染対策に努めていてもリスクは極端に下がりません。

なんとか式が挙行できるようにあと数日、感染症への意識をよりしっかりと持って生活して下さい。

この2年間、園生活においていろいろな制約もありながらも子ども達の生活が不自然に変わらぬように知恵をしぼり、取り組んできました。保護者の参加(行事)などは著しく制限がかけられ、子ども達の成長を目前で喜び合える機会が削がれてしまうこともありました。コロナの終息(収束)はまだまだ見通しが立ちませんがこの2年間、子ども達も園の保育者も常に前向きに生きているのがひしひしと伝わってきました。

コロナ禍でみえてきたもの

他園の保育士と話す機会がありましたがこの2年間はほとんどの園が鎖国状況といえます。研修会、勉強会、それぞれの保育者同士のコミュニティは中止、分断されています。

人と関わる仕事に従事している者にとって人と話ができないことが、どれだけ自分の仕事に影響を与えているのかを痛切に感じる2年間であった。

自らが積極的に動かないと情報が入らない状況になっている。

オンライン、zoomなどでの会合や研修受講もあるが、保育園はもともと、アナログ思考が抜けていない業界です。

ここ数年、業務の効率を上げようとITC化が進んできているが積極的に取り組む園はそう多くはない。

外の世界からの刺激が希薄になっているわけですがその状況をプラス思考で乗り切ろうと「こんな状況だから更に子ども達のことを理解するチャンスだと考える」

コロナでの制限で保育者のメンタルも落ち、結果、保育への活力は削がれている。そんな状況ではあったが目の前の子ども達のことを再度、しっかりみていこうとする試みを(子どもの理解に努めるのは当たり前ですが)この2年間、継続してきた。

「感性を取り戻せ」

先に戻るが他園の保育士との情報交換では、コロナ前の保育がいかに大人中心になってい

たかを思い知らされたという、気ぜわし毎日で行事に追われ、子どもの成果を発表することが優先される行事に違和感なく取り組んでいた自分が情けないと自省していた。

子ども達のことを思いさまざまな計画を立て実践してきたが、しっかりと子ども達に向き合えていなかったと言った。計画通り進んでいくことに変なやりがいを感じていたとも言っていた。

緊急事態宣言の発令などで登園を自粛、休園措置をとることで行事に振り回されることもなくなり、毎日、遅くまで制作などの教材準備で追われることもなくなった。

じっくりと子ども達と向き合えるようになり、子ども主体の活動を大人が目線ではなく子ども達の育ちから考えることができるようになってきたとも言っていた。本来、保育者の資質として当たり前ものだか歪んだ、見栄え優先の保育が「保育者としての当たり前の感性」を削ぎ落していました。多くの保育施設では、この状況下で大切にすべきものを考え、再認識することができているのでしょうか。



「子ども主体」

子ども主体の保育といっても保護者の方がすんなりと理解できる説明はそう簡単にはできないものである。

そもそも主体なんていう言葉を使うことはほとんどない。少しわかりやすくするなら「子ども主体」を「子どもを真ん中にすえて」と置き換えると少しは伝わるような気がする。

常にこどもを真ん中においていろいろと考えてあげること、けして大人の都合で物事を決めないこと。保育者はアンテナをはり子どもの姿からその子の育ちをキャッチすることが自然にできる事が大切、大人の都合で「〇〇だから」「〇〇にちがいない」等、ことの良し悪しを断定することは好ましくない。

子どものことを知り、理解していくことで子どもの立場で物事が考えられる。

人の感情は3歳までに育つといわれる(色々と諸説はありますが)保育の中で子どもの心が育つ時、子どもの心が育っていると感じる瞬間が日常の保育にはあります。

乳幼児期からの保育の需要が増えている現在、子ども達の生活(心の育ち)を保障する大きな役割が保育の現場にあり、保育者に求められています。集団保育と言われる形態をとっているだけに、それぞれの育ちに目を向けそれぞれの育ちにに応じた、仕立て屋さんのようなオーダーメイド(一人、一人に応じた)を意識していくことの大切さを感じています。コロナ禍だから見えてくる現状と保育者の課題とこれからの適正な変化を感じ取り保育に反映させていかななくてはなりません。

(園長 廣部信隆)